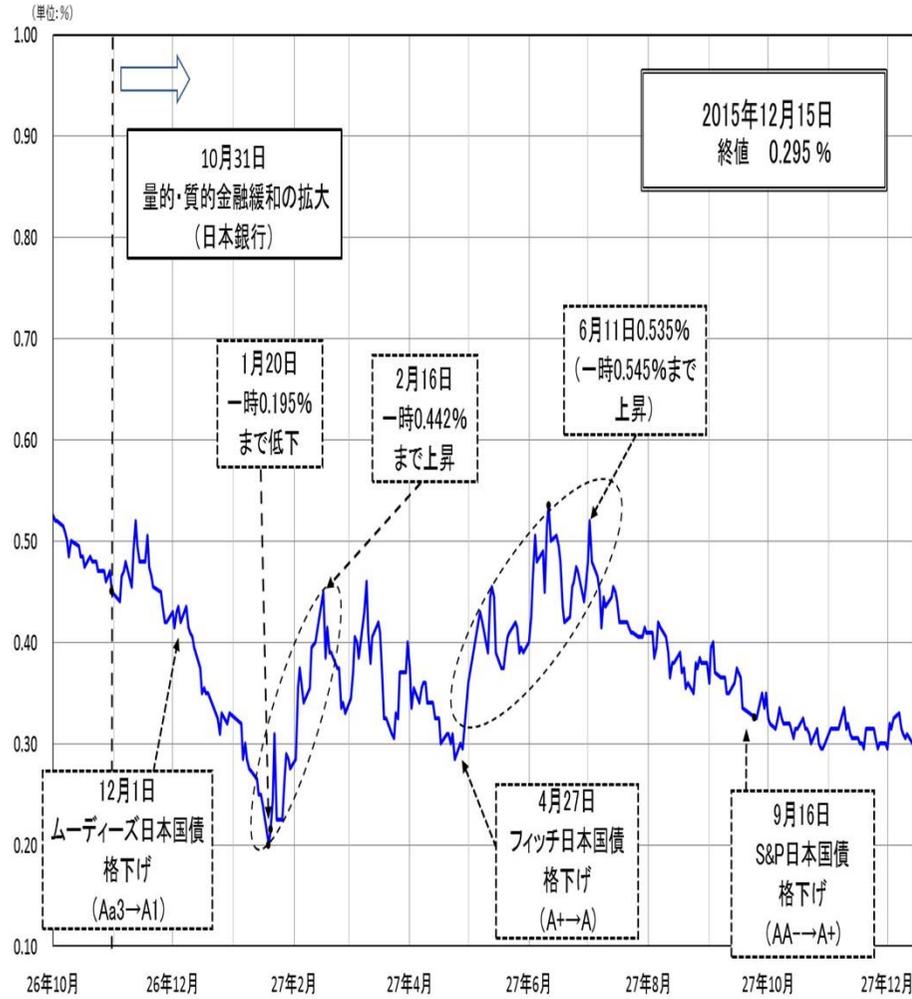


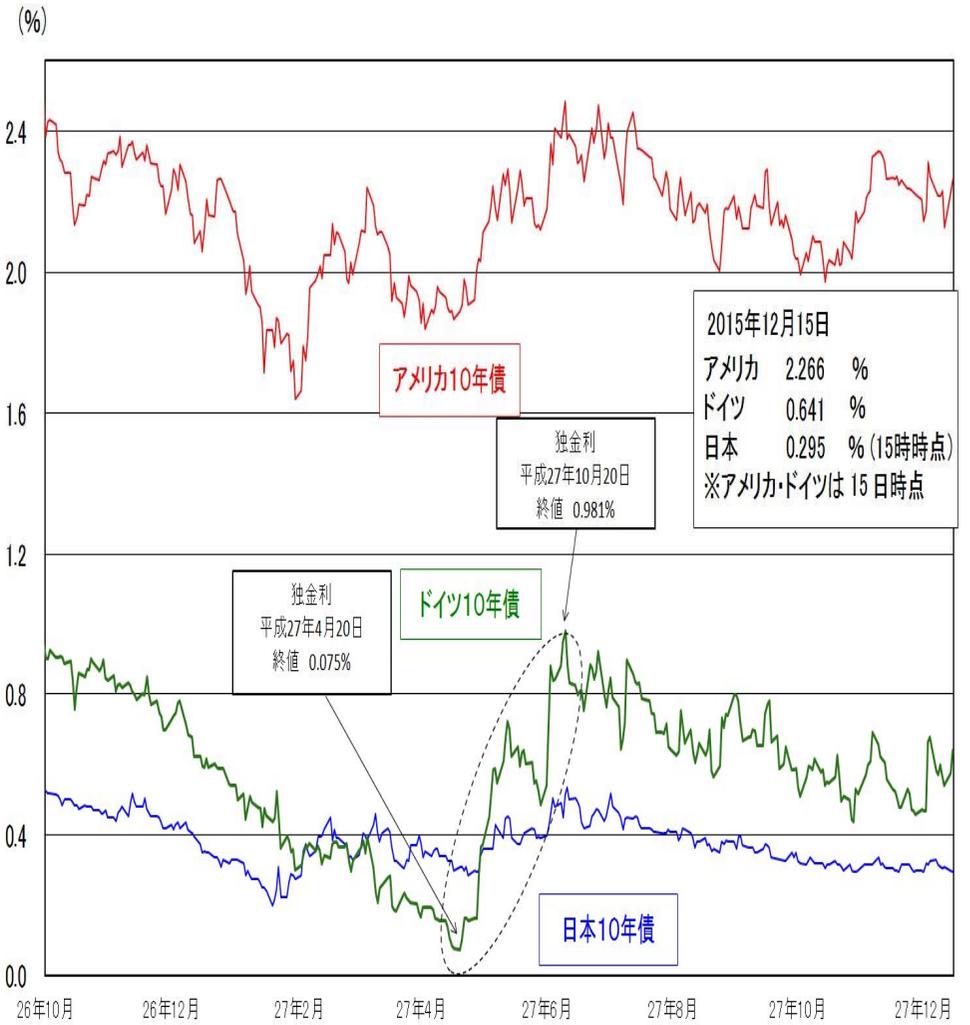
国債市場の動向

長期金利の推移

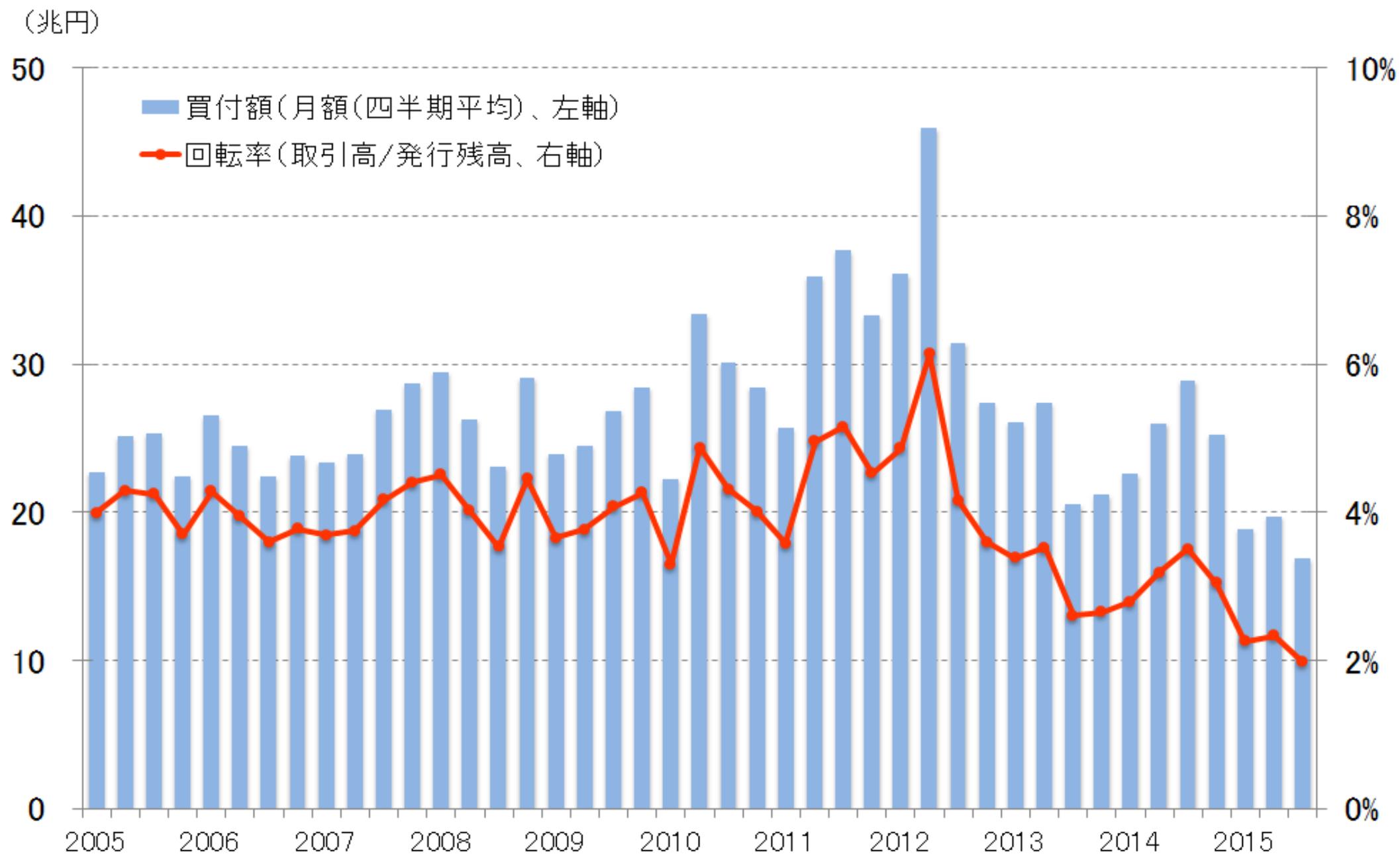
日本



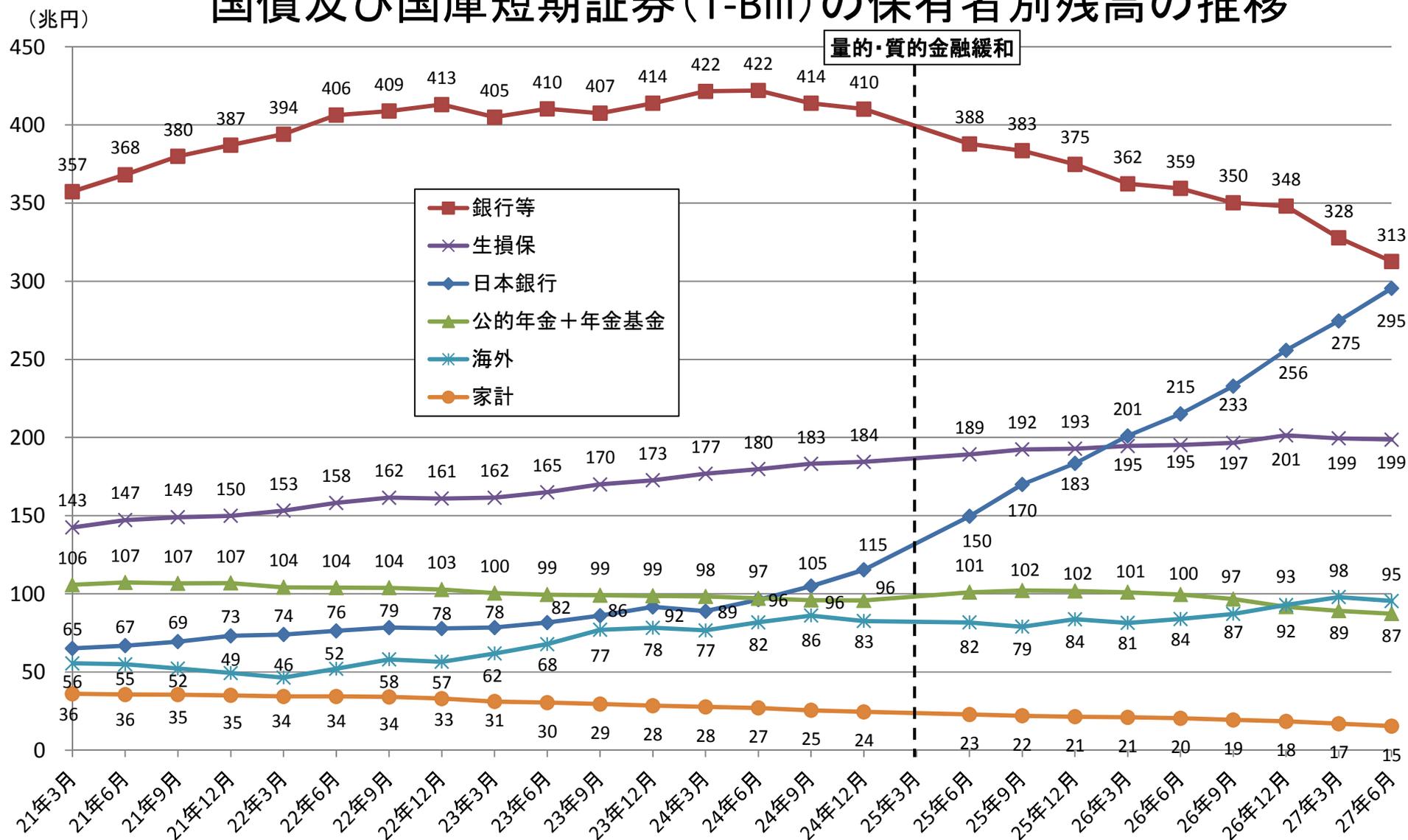
日米独



投資家の国債取引高と回転率



国債及び国庫短期証券(T-Bill)の保有者別残高の推移



(出所) 日本銀行: 資金循環統計

(注) 「銀行等」には「証券投資信託」及び「証券会社」を含む。

バーゼル規制見直しの状況

- 現行規制上、**「銀行勘定の金利リスク」**に関しては、銀行勘定における金利リスク量が自己資本の2割に達した際、当局は必要に応じ監督上の対応を実施(自己資本の機械的な積み増しは実施せず)。
- バーゼル委は、本年6月から9月にかけて市中協議(パブコメ)を「両論併記」の形で実施。現在、市中協議及び影響度調査の結果を踏まえつつ規制内容の最終化に向けて議論を進行中。
- 現行規制上、**(自国通貨建て)国債の「信用リスク」**は、各国裁量により考慮しないことが認められているが、同委において、予断を持たず、「注意深く、包括的に、時間をかけた」検討を実施中。

日本国債のリスク	現行のバーゼル規制	バーゼル規制見直しの状況
金利リスク (=価格変動リスク)	<ul style="list-style-type: none"> • 銀行勘定における金利リスク量(金利変動時の価格下落幅)が自己資本の2割以上に達した場合、当局は必要に応じ監督上の対応。 	<ul style="list-style-type: none"> (案1) リスク量の計測を定式化し、自己資本比率の分母に勘案。 (案2) 金利リスク量が一定水準に達した金融機関を重点的に監督(リスク量の開示等が求められる可能性)。
信用リスク (=デフォルトリスク)	<ul style="list-style-type: none"> • 各国裁量により、リスクウエイトをゼロとすることが可能 	<ul style="list-style-type: none"> • 「注意深く、包括的に、時間をかけた」検討を実施(方向性は定まっていない)

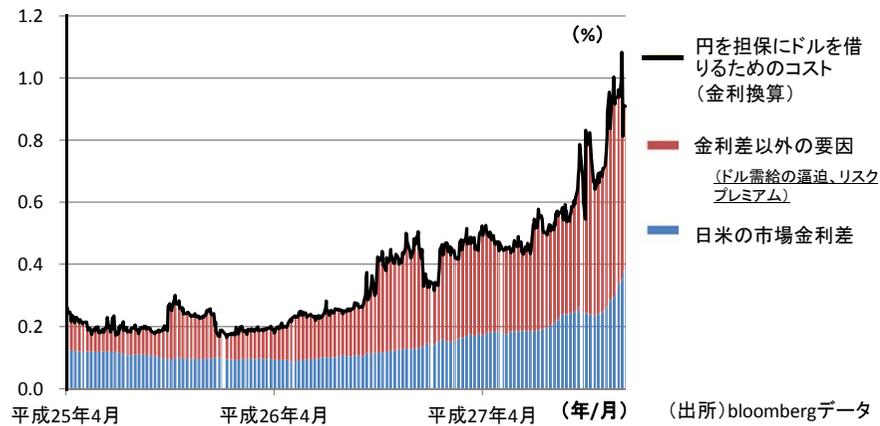
邦銀のドル調達コストの上昇について

邦銀のドル調達コスト上昇について

〈背景〉

- ・本邦勢の海外投融資の活発化 ⇒ドル需要の増大
- ・米国における金融規制強化 ⇒ドル供給の減少
- ・米利上げ観測
- ・その他(リスクプレミアム等)

〈ドル調達コストの推移・要因〉



〈国際業務、市場への影響〉

- ・邦銀にとっては収益圧迫要因。市場は格付けが邦銀のドル調達コストに与える影響を注目。
- ・海外勢は足元の円調達コスト低下を利用して、中短期の日本国債を買い増し。

主要格付会社による国債格付け一覧

(27.12.1現在)

	Moody's	S&P	Fitch
Aaa/AAA	アメリカ、ドイツ	イギリス、ドイツ	アメリカ、ドイツ
Aa1/AA+	イギリス	アメリカ	イギリス
Aa2/AA	フランス	フランス	フランス、韓国
Aa3/AA-	中国、韓国	中国、韓国	
A1/A+	日本 (26. 12. 1)	日本 (27. 9. 16) アイルランド	中国
A2/A			日本 (27. 4. 27)
A3/A-			アイルランド
Baa1/BBB+	アイルランド	スペイン	スペイン、イタリア
Baa2/BBB	イタリア、スペイン		
Baa3/BBB-		イタリア	
Ba1/BB+	ポルトガル	ポルトガル	ポルトガル
	⋮	⋮	⋮
Caa1/CCC+ ⋮ Caa3/CCC-	ギリシャ	ギリシャ	ギリシャ